

【第2分科会】北広島町立川迫小学校

『保護者・地域と共に進める読書活動』

提案者 北広島町立川迫小学校

I はじめに

本校は、「本は友だち めざせ 100冊 or10,000 ページ」をキャッチフレーズに学校をはじめ保護者、地域と一体となり読書活動を推進している。本校の取組は、読書活動を推進していく他校のモデルとしても評価され、平成25年度「子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」を受けている。特に保護者と連携し進めている「ローテーション図書」や「PTC活動での保護者による読み聞かせ」などの読書活動は、本校の特色であり、このような活動がその成果として読書好きの児童を増やし、読書への意欲の向上へとつながっている。

II 取組の概要

- (1) 保護者と共に進める取組
- (2) 地域・外部団体と進める取組
- (3) 読書好きにさせる取組
- (4) 読書環境整備の取組

III 提案のポイントとなる内容

- (1) 保護者と共に進める取組
 - ・ローテーション図書
 - ・PTC活動での保護者による読み聞かせ
 - ・PTA講習会での絵本作家、朝川照雄さんによる講演
 - ・家庭読書の推進

IV 成果・課題

- ・いくつかの取組は、すでに取組を始めて10年以上継続してきたことにより、読書好きの児童が多く、「読書100冊」を1学期の時点で達成する児童も出てきている。
- ・保護者と学校がPTA活動を中心として読書活動を推進し、その取組が定着している。
- ・「なかなか家庭読書が習慣化できていない」と答える保護者もいる。家庭にどうやって読書を習慣化させるか、取組をさらに工夫する必要がある。

V おわりに

保護者、地域と共に読書活動を進めることにより、「本が好きだから読む」児童が増え、読書量も増えた。読書は、読む・書く・考える・想像するなどの技能や能力を向上させ、語彙や知識を豊かにするだけでなく、生き方や考え方を広げたり深めたりさせるものである。読書は学力の基盤であると捉え、教育活動の核として、教科と連動させて学力向上や保護者・地域とのつながりを深め、広い知見を蓄えた児童の人間力を高めていきたい。また、家庭読書の習慣化に向けては、学校と家庭が同じ思いで取り組むことでより効果をあげていきたいと考える。これからも本校の読書活動の取組を通して、保護者・地域の学校教育への理解や信頼を深め、協力体制の強化を図っていきたい。